

PHP on IBM iの現状とこれから

小川 誠氏 ティアンドトラスト株式会社
取締役**河野 栄治氏** 株式会社アミュレット
取締役 営業本部長**田中 昌宏氏** 株式会社オムニサイエンス
OpenOmni事業部 部長

PHP on IBM iの普及はベンダーに支えられてきた側面が強い。IBM i上でPHPが使えるようになった当初から参入し、自社ビジネスの拡大だけでなく、PHP on IBM i市場の活性化にも精力的に取り組む、ティアンドトラスト、アミュレット、オムニサイエンスの3社の技術者に、市場の状況とこれからについて語り合ってもらった。

よさが認知されていない だから普及が進んでいない

小川 IBM iは今年、AS/400の発表（1988年）から25年目を迎えましたが、その長い歴史の中で、2005年にIBM i上で稼働するようになったPHPは新参者だろうと思います。その新参者を、これまでのIBM iユーザーはどう捉えておられるのか。おそらく、IBM i上のPHPで何ができるのか、よく伝わっていないのではないかと思います。つまりPHPのよさを認識しているユーザーがそれほど多くないから大きな普及に至っていない、そんな印象を持っています。

もっともエンドのお客様からしたら実現したいのは自社の課題の解決ですから、PHPが良いとか悪いとかはあまり関係ありません。その観点でいえば、自社の何らかの課題を解決しようとした時にPHPが候補にあがってこないことが問題なんだろうと思います。そこはこれからの、我々の課題ですね。

河野 2005年にZend Coreが発表されIBM i上でPHPが使えることがアナウンスされた時に、多くのIBM iユーザーは一度は関心を向けたと思うんです。当時、東京や大阪などでセミナーを開くと、とても大勢の人が集まりました。

しかし、その初期の時代に、システムのレスポンスが悪いとかメーカーのサポート体制が確立されていないといった問題が噴出したため、お客様が先へ行けなくなったのではないかと思います。私の経験でいえば、Zend Coreに英語版と日本語版があり、どこがどう違うのか戸惑った記憶もあります。スタートダッシュすべき時に、お客様がつまづいてしまうポ

イントがいくつもあったということですね。

今はシステムのパフォーマンス1つを取ってみてもZend Core時代とは見違えるくらいよくなっているのですが、初期のつまづきが現在まで尾を引いているように感じます。

それと、ベンダーの間で「PHPでは稼げない」といった風評が何となく広がったことがベンダーの参入にブレーキをかけたと思います。もちろん、お客様に対しきちんとしたソリューションを提供できればそんなことはないのですが、そうした誤った理解がベンダーの足を止めていたのも事実ですね。

ユーザーの間で 高まる関心

田中 最近、Googleなどで検索して当社のホームページに辿り着き、問い合わせをしてこられるお客様が増えました。ベンダーからの問い合わせも増えています。それがここ1～2年の傾向ですね。また、当社ではPHP on IBM iに関するQ & Aサイト「wakarana-i」(<http://www.wakarana-i.com/>)を公開しているのですが、RPGユーザーからもよく質問を頂戴します。全体的には、IBM iユーザーの間で関心が高まっているという印象です。

その一方で、ベンダーに依頼してRPGプログラムをPHPへ移行させたお客様が、次は自分たちでPHPを使ってみようという段階になって「壁」に当たって停滞しているのをよく見かけます。Webシステムの開発にはWeb技術の習得が必須ですが、IBM i技術者にとってはそこが大きな「壁」に



第2特集

ここまできたPHP on IBM i

座談会

PHPビジネスを推進する第一線のベンダーが熱く語る
PHP on IBM iの現状とこれから



左から、小川誠氏、河野栄治氏、田中昌宏氏

なるようです。いろいろな局面がありますが、PHPの本格的な普及はこれからと見ています。

河野 メンテナンスや開発を自社でやりたいというお客様に対しては、情報の提供やサポート体制の整備など、まだ課題がありますね。しかしPHPを手がけるベンダーが増えているのも事実でしょう。その点はユーザーにとって大きな安心材料だろうと思います。アミュレットのお客様であればアミュレットに問い合わせれば、何らかの手がかりが得られます。ただし、当社のノウハウで解決できることばかりではないので大変な面もありますが、そうしたことでお客様が安心を得られるのは重要なことと思います。

普及拡大に必要な 3つのことがら

田中 PHP on IBM iの普及拡大に必要なことは、3つあると思っています。1つはプロモーションです。IBM i上で構築されたPHPの開発事例や技術情報を積極的に公開していくこと。ユーザーの多くはIBM i上のPHPで何ができるのか、どういうメリットがあるのかを詳しくはご存じないので、まずは知っていただく取り組みが必要です。

2つ目は技術者の育成です。IBM iでPHPを動かすメリッ

トは適材適所でIBM i資産を活用できることですが、それにはIBM iとPHPの両方の技術が不可欠です。今は、IBM i技術者とPHP技術者が連携して開発するのが一般的ですが、今後はPHPを使えるIBM i技術者、あるいはIBM iに通じているPHP技術者を、ベンダーあるいはお客様企業の中で育成していくことが必要だろうと思います。ハイブリッドな技術者の育成ですね。

3つ目は、ベンダーによるサポートの充実です。PHPはオープンソースだから確かなサポートを得られないというネガティブなイメージがまだあると思うので、ベンダー・サポートの充実が重要です。例えば、うちのCCISDは5026だがどうすればいいのかといったIBM iユーザーならではの疑問にも的確に答えられるサポートが必要です。それに関連して、PHPはバージョンがどんどん更新されていきますから、システムを保全するためにそれへの対処や管理も必要です。業界を挙げて取り組むべき課題ですね。

小川 田中さんの「開発事例や技術情報の積極的な公開」という指摘は、とても重要ですね。当社のお客様はオフコン的な使い方をしているIBM iユーザーが多く、PHPを使ってGUI化できることをご存じなのは、まだあまり多くありません。

IBM iの「i」は「インテグレーション」という意味ですね。IBM iの歴史を振り返ると、オープンな技術を含めさまざま

Part 5

な技術がインテグレーションされIBM i上で使えるようになっています。つまり、基本的なことはIBM i上で何でもできるという発想を持っていただくことこそ重要だろうと思います。そのためには、「開発事例や技術情報の積極的な公開」が喫緊の課題と言えます。

河野 それに加えて、IBM iユーザーによく接触しているのは誰かといったらハードウェアを販売している人たちです。で

PHP ビジネスを推進する第一線の技術者からのコメント



濱 修二氏

株式会社アミュレット
営業部 部長

IBM i ユーザーが 本腰を入れていい時期が到来

最近、IBM iユーザーの間でPHPへの関心が再び高まっているのではないかと感じることがあります。当社のホームページを見たと言って問い合わせをしてこられるユーザーが増えたのもその1つですが、時々、具体的な突っ込んだ質問をされる方がいて、深く浸透しつつあるのを実感しています。ただ市場全体で見たら、問い合わせできる、サポートを受けられるベンダーが少ないのも事実です。

PHP自体は、RPG技術者にとってそれほど難しい言語とは思えません。しかしPHPを使っていく中でJavaScriptなどが必要になってくると、とたんに近寄りづらい言語になるようです。そうした壁にぶつかったお客様を、ベンダーやIBMがいかにフォローしていくか。情報提供やサポートが重要ということでしょうが、その一方で、RPGとPHPの文化の違いを理解してもらうことの必要性も強く感じています。

今、PHPを導入しようとするお客様からご要望が多いのは、スマートデバイスです。タブレットやスマートフォンからIBM iのデータを利用したいという時に、PHPが出てきます。

PHPならGoogle MapやGPSなどの外部サービスを利用するのが非常に簡単です。また、これまで高価なハンディターミナルでやっていたことを、スマートフォンをデバイスにしてPHPによる作り込みによって安価に利用することも可能になっています。

すべてをPHPでやるのではなく、IBM iとPHPを適材適所で使い分けていくことが必要です。これからはWebブラウザが多くのシステムでユーザー・インターフェースになっていきます。そうした流れを考えると、IBM iユーザーがPHPに本腰を入れていい時期が来ていると感じます。

すから、そういう人たちにPHP on IBM iのよさを知ってもらい、IBM iユーザーに伝えてもらうことも重要だろうと思います。

小川 IBMの安井さん(安井賢克氏。IBM iエバンジェリスト)の講演を拝聴すると、PHP on IBM iの素晴らしさを改めて認識させられることがよくあります。でも、そうした見方や情報が、IBMの第一線の営業やベンダーの営業に届いていないのかも知れません。

田中 Web化だけでなく、PHPは開発言語だからいろいろなことに適用できるということですね。レガシー的な使われ方をしているIBM iに、PHPはオープンという新しい生命を吹き込むことが可能です。RPGとPHPを適材適所で使い分けることによって、IBM iの既存資産を十二分に活用していくことが可能です。そこをもっとアピールしていきたいですね。

パフォーマンスもよく 改善された利用環境

河野 PHPを採用したいというIBM iのお客様からは、RPGでは実現できないような難しい課題をたくさんいただきます。しかし、PHPの世界にはフリーの素材が数多く公開されていますから、場合によってはそれらを使うことで、プログラムを一から作ることなくスピーディに低コストで開発できます。ただ、それはPHPの利点であって、PHP on IBM iのメリットとは言えないかもしれません。PHP on IBM iのよさは、何と言ってもIBM iという卓越した安定性・信頼性を持つプラットフォーム上でPHPを使えることです。だからPHP on IBM iのよさをアピールするには、IBM iのよさを訴求する必要もありそうですね。

小川 それはIBM iユーザーでない、新規のお客様に対してですね。

河野 そう。非IBM iのお客様に対しては、IBM iを使うことによるTCOが最大のアピールポイントになると思います。

小川 同感ですね。そして既存のIBM iユーザーに対しては、「IBM i上にデータがあるから」というのが最大の理由になると思います。お客様にとって最も重要なのはデータベースです。それを新しい環境から利用する、そのインターフェースになるのがPHPということですね。

IBM iと外部とのインターフェースは、JavaやRPGなどどのような言語を使っても開発できます。言い換えれば、IBM iの中でRESTやSOAPをどう実現するかということですが、Java



第2特集

ここまできたPHP on IBM i

PHPビジネスを推進する第一線のベンダーが熱く語る
座談会 PHP on IBM iの現状とこれから

はオブジェクト指向を習得しなければなりませんし、RPGでは制約が多すぎます。結局PHPが、RPG技術者にとっては最も簡単に優れたインターフェース機能を提供できる言語となります。

河野 当社を立ち上げた時は、LAMPとRPGの2本立てでスタートしたのですが、2000年代中頃にIBM iとPHPを融合できることを知って、会社としてPHP on IBM iの方向へビジネスをシフトしました。今、当社の7～8割のお客様がPHP on IBM iの形態です。現在は開発するプログラムによってRPGとPHPを使い分けていますが、今後は、例えば在庫照会システムで将来スマートデバイスを使う可能性があるのなら基幹ロジックもPHPで開発してしまうという一歩踏み込んだ展開をしていきたいと考えています。Zend Serverのパフォーマンスが飛躍的に向上し、IBM i/Power Systemsの性能も向上していますから、そうした展開も可能だろうと見ています。

小川 確かに、IBM i上でPHPを使う環境が格段によくなっていますから、これまでPHPで作るのを避けていたようなシステムが容易に開発できる可能性が出てきました。従来は控えていたSQLを多用するようなシステムが、今後は無理なく実装できるかもしれません。従来とは違う内容を持つPHP on IBM iが広がる可能性もありますね。

積極的に情報提供

ツールやアプリの提供も

田中 当社も今はPHP on IBM iをビジネスの中心に据えています。今後は、技術情報の公開やサンプル・プログラムの提供を積極的に進めていく計画です。PHP on IBM iに取り組み始めたお客様に実績を積み上げていただき、継続してPHPを使ってもらうのが重要と考えているからです。

またそれとは別に、お客様のご要望に応じたサービスの拡充や、業務で使える汎用的なアプリケーションやツールの提供も計画しています。具体的にはWebからクエリーを実行して、手軽にデータを照会できる「PHP簡易クエリーツール」を予定しています。

もう1つは、パートナーとの連携強化に取り組めます。当社は日本最大のIBM i専門家集団である「iBIアライアンス」に加入しています。そのアライアンスの中でパートナーとの連携を重視して、より広い角度でお客様にPHP on IBM iのソリューションをお届けしていくのが狙いです。

PHPビジネスを推進する第一線の技術者からのコメント



荒木 敏雄氏

株式会社アミュレット
営業部 営業課 課長

**SWMAでのサポートは
大きな前進。PHP導入の素地が
整備されつつある**

私が今担当しているプロジェクトでは、現行のRPGプログラムをASP化するのにPHPを使っています。基幹ロジックでRPGを流用できるところは流用し、データベースは従来通りのDB2/400、インターフェースはKONAを使ってGUI化し、そのほかすべてをPHPで開発するというやり方です。そうした複合的な作り方が当社の場合、一般的になっています。

しかし市場全体を見渡すと、PHPをGUI化ツールと思っているIBM iユーザーは意外に多いのではないかと感じます。サポートや技術情報の提供が今以上に必要なのは当然ですが、IBM iユーザーへはベーシックな情報から提供すべきだと思います。

普及に加速をつけるという点では、ベンダーによるサポートが重要で、その充実が今も最も必要なポイントだろうと思います。IBM iユーザーは伝統的に自社開発・自社運用の文化を持っています。PHPに取り組む時も自分たちでやろうというお客様が多く、教育やサポートの要請が寄せられます。そうしたニーズにどう的確に応えていくかも重要です。

その面では、今年になってIBMのソフトウェア・メンテナンス契約(SWMA)にPHPのサポートが加わったことが大きな動きだろうと思います。IBM i 7.1のユーザーを対象にしたオプションではありますが、IBMによるPHPの公式サポートは初めてです。そうした要望がワールドワイドで広がっていると感じさせます。

そのIBM i 7.1では、DB2の機能が拡張されSQLが強化されるなど、PHPからDB2を利用するのにさらに使いやすい環境になっています。こうしたことと、ベンダーのサポートやSWMAを利用することによって、より高度なPHP on IBM iを構築できる素地が整備されつつあると感じています。

小川 当社は、私どものお客様を中心にPHPをご提案し、IBM iシステムをよくしていくことに取り組んでいます。それと同時に、市場全体を盛り上げ、PHPを導入するIBMユーザーが1社でも増えるよう活動していきます。PHP on IBM iは、まだ十分とは言えない環境ではありますが、いろいろなものが整備されつつあり、とても面白い局面に差しかかっていると思います。❶